



錦城高校新聞
題字 井口 文章
再刊 第252号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2018

みんなでつくる
錦城高校新聞

私を蔵王に連れてって

KJ SKISKI

54回生、蔵王へスキー修学旅行

1月29日(月)から2月2日(金)の間、山形県にある蔵王山で2年生のスキー修学旅行が行われた。蔵王山の噴火警戒レベルが引き上げられるなど不安な面があったものの、天候に恵まれ、心に残る5日間となった。

1日目 蔵王へ出発!

上野駅に集合して始まった。新幹線やバスの車内では、トランプやウノをしたり、話をしたりしながら、和気あいあいとした時間を過ごしていた。蔵王到着後には、開校式が行われた。



4日目のフリー滑走は、蔵王では珍しいという快晴。美しい銀世界を背に、滑走前のはじける笑顔でピース!

2日目 更なる上達へ

蔵王で迎えた初めての朝。慌ただしく準備を終え朝9時から午後3時半までスキー実習が行われた。レベル別の講習では、初心者にはリフトの乗り方やボーゲン、経験者はパレルなど本格的な講習を受ける。それぞれの班でリフト



インストラクターの丁寧な指導

3日目 全山ツアーへ

晴天で迎えることができた。どの生徒も思い思いの楽しみ方をしていた。また、相手のチームに札を取られたときでも拍手がおきることなど、途中マイクが故障するなどハプニングもあったが、それでも第二体育館は終始和やかな雰囲気だった。結果は1位が217枚獲得したA組、2位が194枚獲得したH組、3位が190枚獲得したC組だった。

大盛況! 1年生だけの食堂



2年生が修学旅行に行っている1月29日(月)~2月2日(金)の5日間、今年も食堂では「お留守番キャンペーン」が実施された。去年に引き続き、食券購入者に無料でヤクルトが配られ、一部商品は価格が下げられて提供された。今年は昨年と比べ利用者が多かったそうだ。キャンペーンの盛況を受け、食堂チーフの吉川康子さんは「上手いって良かったです」と嬉しそうに話した。

一面: 54回生、笑顔あふれるスキー旅行記
一年生、クラス対抗の百人一首大会
二面: 変わっていく大学入試の形式
修学旅行支える堀美智子さんに話を聞く



全山ツアー中に、立ち寄ったレストハウスで玉こんにやくを頬張る

5日目 陶芸で思い出作り

宿を出発し、クラスごとに「ぐつと山形」こと山形県観光物産館の買い物と、七右衛門窯での平清水焼きの陶芸体験。

「ぐつと山形」では家族や友達、後輩などにお土産を買う人が多く見られた。中には米沢牛を使ったコロッケや、ジェラートなどグルメに舌鼓を打っている人も。陶芸教室では一つの粘土からお皿を作ると「転ばずに滑れた!」「たくさん滑れて楽しかった!」と満足げな言葉を聞くことができた。



思いのままに趣向を凝らした作品を作る



寄せ書きにこぼれる笑顔

蔵王ハイムスキースクーは農家で、秋田県横手盆地のル・インストラクターの岡根弘幸さんは12、13年前から錦城生を指導しており、なんと姪っ子さんは元錦城生。本業である現在の生活にとても満足しているという。

「スキーの楽しさ伝えます」

蔵王ハイムスキースクーは農家で、秋田県横手盆地のル・インストラクターの岡根弘幸さんは12、13年前から錦城生を指導しており、なんと姪っ子さんは元錦城生。本業である現在の生活にとても満足しているという。

むらさき草

「シェイシェイ、ありがと」。小さい子供に写真撮影を頼まれお礼をされた。オーストラリアから来た人とリフトで相席した。父親らしき人が中国語で子供にスノーボードを教えた。蔵王のグレンデで滑っていて気付いたのは、外国人が多いということだ。治安が良いこと、オーストラリアやカナダに比べ低価格でスキーができること。そして何より、質の良いパウダースノーが外国人にとって日本でスキーをする魅力となっている。今や多くの外国人観光客にとって日本を訪れる目当てはスキーだ(三木 特集より)。



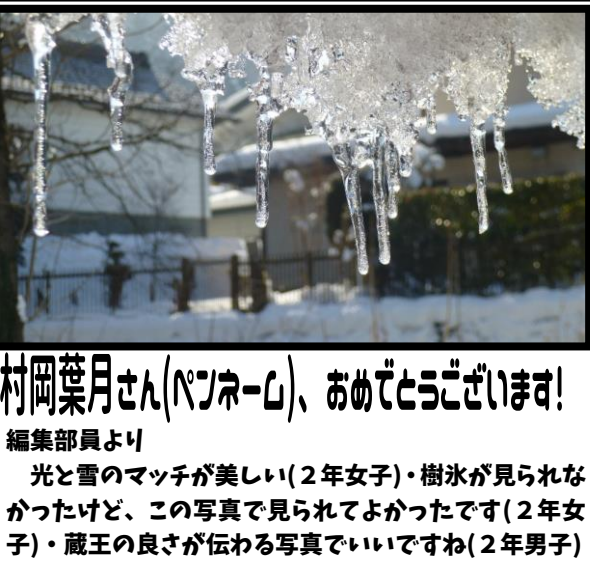
全山のコースについて話し合い中...



さだ先生、最後の蔵王スキー旅行!



2枚がコンテスト最優秀賞!



村岡葉月さん(ペンネ-ル)、おめでとうございます!

※フォトコンテストは編集部員の独断と偏見で決定しました